

初恋を思うべし

南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館 NO. 14 (2022年11月1日号)

『西日本の犬養万葉歌碑を歩く』完成!

「犬養万葉歌碑」を訪ねて歩くためのハンドブックの第2弾、「西日本編」ができました。今回は滋賀・大阪・和歌山より西側にある犬養先生揮毫の万葉歌碑60基と関連碑・施設を

載せています。また、当館の岡本三千代の歌碑も掲載しています。西日本の歌碑は大阪と大宰府を除けば、人が特別に訪れることがないところばかりですが、風光明媚な景色の良いところがたくさんあります。ハンディタイプなので万葉故地を歩くのにも最適です。旅の道連れとなりますように…。引き続き、「東日本編」を準備中です。(税込み700円)



犬養先生の碑



貝を拾って石で割って、川で振り洗いで、辛塩で揉んで…と、シタダミの調理をままごと遊びのように歌った、古代の能登地方の民謡と考えられています。奥様と訪ねられた思い出の地、能登七尾湾の机島に犬養先生揮毫の歌碑が建っています。

⑨ 鹿島嶺の 机の島の 小螺を
い拾ひ持ち来て 石以ち
つつき破り 早川に 洗ひ濯ぎ
辛塩に ごごと揉み 高坏に盛り
机に立てて 母に奉りつや
めづ見の刀自 父に献りつや
みめ見の刀自
能登国歌 (巻16-3880)

記念館歳時記



さわらび万葉講演会を開催しました
若菜祭終了後も万葉発信をと、2年ぶりの7月24日に村瀬憲夫・近畿大学名誉教授の講演会「万葉集の成り立ち」を開催しました。巻1と巻2で題詞の表記が「不統一」であること、巻1内でも題詞表記に「断層」があることなどを通じて、『万葉集』編纂のプロセスを垣間見ることができるとお話いただきました。



8月28日、記念館でFMヤマトの公開放送!
毎月第2・4日曜夜に放送中の「岡本三千代の万葉うたがたり」の公開放送が行われました。いつもはスタジオ内での岡本三千代特別館長とアシスタントの岡崎希さんとのやり取りを間近に見ることができました。明日香で詠まれた天武天皇と藤原夫人の歌などを取り上げ、あっという間の1時間でした。



明日香風Tシャツ販売中
犬養先生揮毫の第1号歌碑「明日香風」の万葉Tシャツができました。ブラックまたはパープル地にちょっとキラキラした文字がお洒落です。裏には英訳の万葉歌がプリントされています。サイズはMとLがあり、税込み2,500円。



山吹の実!?見てね!
「山吹の実は成らない」と一般的に思われていますが、記念館の山吹は一重なので実がなります!夏の終わりにもちらほら花を咲かせ、薄緑色の実をつけているのを見ることができますよ。百聞は一見に如かず!

補色

忘れ草(ぐさ) 垣(かき)もしみみに 植ゑたれど
醜(しこ)の醜草 なほ恋ひにけり

作者未詳 巻12-3062

宇陀万葉なでしこ苑(宇陀市榛原ひのき坂自宅庭)では、この夏も橙色の忘れ草(ヤブカンゾウ)がたくさん咲きました。庭の隅に一株植えたものが、少しずつ増えて、「垣もしみみに(びっしり)」になりました。前庭でも、主(ぬし)として客を迎えています。



わすれくさ(ヤブカンゾウ)

夏に橙色の花を付ける植物は多数あります。万葉植物では、ぬばたま(ヒオウギ)や呉藍(くれなゐ=ベニバナ)、他にノウゼンカズラやカンナなど。炎天下、青空をバックに咲く橙色の花はとても目立ちます。これは、橙と青が補色(反対の色)

だからです。太陽の光のうち、目に見える光(可視光)をエネルギーの小さいものから順にならべると、赤、橙、黄、緑、青、紫になりますが、赤と緑、橙と青、黄と紫が補色です。花が橙色に見えるのは、補色である青い光を吸収し、他が残るからです。補色は目立ち、虫たちも見つけやすく、受粉がうまくいき、その植物は生き残っていくのかもしれない。宇陀万葉なでしこ苑では、これから、呉藍(ベニバナ)の種をまきます。来年の夏がたのしみです。

赤と緑も補色です。緑の草むらに咲く赤い花も目立ちます。

道の辺の いちしの花の いちしろく
人皆知りぬ 我が恋妻は

作者未詳 巻11-2480

「いちし」は彼岸花(ヒガンバナ)。秋のお彼岸の頃、真っ赤な花をつけます。「道端の草むらに咲くいちしの花のように、いちじろくめだって、衆人の知るところとなってしまった」の意です。飛鳥では、稻渕の棚田、橘寺の北、真神の原などの田の畔の彼岸花の光景が美しいですね。

夏の野の 繁みに咲ける 姫百合の
知らえぬ恋は 苦しきものぞ

大伴坂上郎女 巻8-1500

赤い花は緑の中では目立つはずなのに、小ぶりな姫百合は夏草の深い繁みに埋没してしまったのかもしれない。

黄色と紫も補色です。



いちし(ヒガンバナ)

山吹(やまぶき)の 咲きたる野辺の つぼすみれ
この春の雨に 盛(さか)りなりけり

高田女王 巻8-1444

山吹(ヤマブキ)の黄色とつぼすみれ(ツボスミレ)の紫、美しい取り合わせですね。宇陀万葉なでしこ苑でも、山吹の近くにツボスミレを増やす作業中です。

万葉歌碑の情報です。今年4月、桜井市出雲中坊に万葉集の巻頭の雄略天皇の歌の歌碑が建立されました。集落の上方で、歌碑の前は西側が開け、初瀬谷や、三輪山麓と外鎌(とがま)山(朝倉富士)の間には、畝傍(うねび)山や耳成(みみなし)山が遠望できます。早春、雄略天皇が菜を摘む乙女に求婚した場所は、今となってどこも定められませんが、こんな所かもしれませんね。碑の場所は、出雲出身で、「原始(もと)三輪山」など地元の歴史を研究、顕彰されていた故 榮永増文(えいながますふみ)さんの土地で、地元の方々が永長さんの遺志を継いで歌碑を建て、手作りの公園に整備されているところです。是非、見に行ってください。



編集後記

★中秋の時期を迎えると犬養先生のことを思い出します。亡くなられて満24年が経ちました。高岡万葉まつりの最中に訃報が流れ、ご葬儀の日には偶然に「明日香路で月を観る会」の当日でした。この4半世紀の間に世代交代や観光行政の活発化によって、万葉の故地に対する考え方が目に見えて変化してきました。元号「令和」もきっかけになったかもしれません。犬養先生が愛して止まなかった明日香村も「飛鳥・藤原京を世界遺産に」と2025年の登録申請に向けて本格的に始動ははじめました。今、自由に散策できる飛鳥の地で、世界遺産に登録後、どれくらい制約がでたり、観光客のためのサービス施設が増えるのでしょうか。また不便な交通網の村へ、続々と大型バスが乗り入れたらと老婆心は尽きません。犬養イズムを引き継ぐ私たちは、時代や状況は違えど開発の防波堤としての意識は忘れてはならないと思っています。

記念館イベントのご案内

- 馬場吉久講師の万葉植物野外講座(次回は12月4日)
- 岡本三千代の万葉ゼミ(毎月第3日曜)
- みんなで歌おう懐かしの歌(毎月第1木曜)

※ 詳細についてはホームページ、または記念館にお問い合わせください。

発行者: 南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館
〒634-0111 奈良県高市郡明日香村岡1150
tel: 0744-54-9300 fax: 0744-54-4200
Eメール: info@inukai.nara.jp
ウェブサイト: http://inukai.nara.jp

発行責任者: 奥山雅美